



第2号

令和3年5月31日

庄和すずらん幼稚園

## 創造する生活！

季節は巡り、早い訪れと言われる梅雨入りの気配を感じる中で、いちご狩り、年少組さんの親子遠足もさせて頂きました。園内でも朝顔の種を植え付けたり、夏野菜づくりの準備もしております。しゃぼん玉遊びのように夏の季節に向けて遊びも展開されております。此のところでは、父の日のプレゼント製作で、各学年でも工夫を凝らして思いを形にして持ち帰ることを楽しみに、担任や友達との会話の中にイメージを膨らませながら楽しい製作に成っております。我々も自然の中で生かされている一人ひとりですが、季節の移り変わりに合わせた生活や催しものや行事などで生きてる喜びを感じながら生きていることにも行きつきます。幼稚園生活におきまして、自然と関り自然の美しいことや、分からないことが多い中で不思議さを面白く自分の中に受け止めて、経験を積んで居る一日一日であります。そんな生活の中でも、人間は考える葦なんですよ！どうしたら面白くなるか、どうしたら思うような形に出来るか！それは、制作に留まらず毎日の遊びの中でも、工夫を凝らして遊びを広げ発展させていることにも驚きます。子ども達にとっての良い環境や遊び道具は、固定された物ではなく変化の出来る形の遊具が望ましいのです。次々に発展が生まれて、次々に興味や関心毎が移りますので、遊んでいる後ろは、やりっぱなしの散らかり放題になるのも必然なのでありまして、遊び込めている喜ばしい証拠として、その場は見守り隊に成れると、ますます遊び込めるのであります。整然と片付けられた所に遊びの喜びのひとつかけらも生れていないかと思われまます。片づけは、楽しかったねと一緒に片付けも遊びながらやれると大満足！遊びは心の流れの表われですから、途中で寸断されることは、どなたもお好きではないはずです。生活を創り出すことは、心掛けて育つものかも知れませんが、子ども達には柔軟な意欲がありますので環境さえ整えてもらえれば、どんどん育つことに間違いはありません。私たちが子ども達から学べる一つです。何気ないところから創意工夫をして、環境を変えて休んでみたりしながら改めて挑戦してみると、案外良いものが生まれたりする時があります。幾らかでも楽しく快適に過ごしたいと言う思いを尽くして生きているわけですが、我々大人には、ブレイクタイムという方法も会得しています。

貞心尼は、鞠付き遊びとは不思議なものです。地面にぶつかる跳ね返り手に戻って来る。この繰り返し、つき終わることがありません。良寛さんは、鞠と言うものはね、強くつけば強く跳ね返る。弱くつけば弱く跳ね返る。まっすぐつけば、まっすぐに。斜めにつけば、斜めに。鞠つき遊びの鞠にウソはない。いつも正直。あなたがつく鞠は、あなたの心そのもの。人と競い合っははいけません。鞠つきの極意はただ一つ、無心。1, 2, 3, とついて10で終わったら、また1に戻ればいいのです。初心に、原点に戻ってまた始めるのです。こんな文章を、只今、友人が送ってきました。

少々、話がずれましたが、観点を変えて見直しながら創意工夫を生活の中で心掛けて行きますと、前向きになれるですよ。明日から衣替えです。子ども達に学ぶ力を貰いながら今の生活の中から喜びを見つけて子ども達に周囲にご恩返しを致しましょ。